

歴認研活動記録

歴史認識問題研究会・役員名簿（令和6年9月現在）

- 会 長：西岡 力（モラロジー道德教育財団教授・麗澤大学特任教授）
 副 会 長：高橋史朗（麗澤大学大学院特任教授・モラロジー道德教育財団教授）
 同 ：江崎道朗（評論家・麗澤大学国際問題研究センター客員教授）
 同 ：ジェイソン・モーガン（麗澤大学准教授）
 事務局長：勝岡寛次（麗澤大学国際問題研究センター客員教授）
 同 次長：長谷亮介（歴史認識問題研究会研究員）
 幹 事：久野 潤（日本経済大学准教授）
 久保田るり子（産経新聞編集局編集委員）
 監 査：島田洋一（福井県立大学名誉教授）
 顧 問：櫻井よしこ（ジャーナリスト）
 同 ：田中英道（東北大学名誉教授）
 同 ：渡辺利夫（拓殖大学学事顧問・前総長）

訃 報

本会顧問・伊藤隆先生（東京大学名誉教授）が、さる令和6年8月19日、91歳で逝去されました。

先生は日本近現代史研究の第一人者で、左派が唱えていた日本近代史における「ファシズム」の定義に実証主義重視の立場から異を唱え、「天皇制ファシズム論」の衰退をもたらす等（ファシズム論争）、歴史認識の問題についても斯界に大きな貢献をされました。

平成29年（2017）6月23日、本会の研究会にもご出講いただき、「いわゆる「歴史認識問題」についての私の考え」というテーマで、お話をいただきました。先生のご生前のご厚誼と、本会に対する懇篤なるご指導に感謝し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

令和6年8月27日

歴史認識問題研究会

歴認研活動履歴（令和6年3月以降）

令和6年（2024）

6月15・16日 歴史認識問題研究会公開研究会（於東京・大阪）

朱益鐘著『反日種族主義「慰安婦問題」最終結論』出版記念講演会

朱益鐘「嘘の歴史に振り回された歴史—慰安婦運動時代の終焉」

西岡力「歴史認識問題としての慰安婦問題」

（朱益鐘先生の講演記録、西岡力会長の講演は同題の論文を本誌に収録）

7月10日 第3回慰安婦問題を巡る国際シンポジウム2024（於星稜会館）

第一部 基調講演

西岡力「歴史認識問題としての慰安婦問題」

李栄薫「日本軍慰安婦問題が韓国社会に及ぼす破滅的影響」

マーク・ラムザイヤー「歴史問題と米国大学の問題—これからどうすべきか？」

第二部 研究発表

柳錫春「延世大講義 名誉棄損刑事事件 第二審の争点」

福井義高「慰安婦をめぐる事実と価値判断の間：経済分析の観点から」

金柄憲「2023年日本国を相手にした慰安婦訴訟判決全文と教科書の記述」

李宇衍「韓国メディアの慰安婦問題に関する報道動向」

松木國俊「慰安婦訴訟—日韓関係を破壊する個人請求権復活の危険」

ジェイソン・モーガン「The Comfort Women Hoax

—慰安婦問題という詐欺の終焉とこれからの課題」

（国際歴史論戦研究所主催、本会は協催。李栄薫先生の基調講演は本誌に収録）

月例研究会（非公開）開催記録（第10回～第15回）

回	日時	講師（肩書）	テーマ
10	6.3.22	勝岡寛次（麗澤大学国際問題研究センター客員教授）	朝鮮人戦時労働者の「証言」に関する学問的考察
		長谷亮介（歴史認識問題研究会研究員）	三井三池炭鉱万田坑朝鮮人名簿の考察
11	6.4.26	松原孝明（大東文化大学教授）	二つの顔（？）をもつ穂積陳重—法律進化論と祖霊祭祀論
		東郷茂彦（國學院大學神道学博士・元ジャーナリスト）	天皇の永続 古代から未来への、しなやかな糸
12	6.5.24	三浦小太郎（評論家）	東アジア反日武装戦線の『思想』 —アジア・アイヌ・沖縄への贖罪史観のいきつくところ
		崔碩栄（フリーライター）	次の歴史戦のテーマとして再登場した「関東大震災朝鮮人虐殺」
13	6.6.28	安藤智重（朝河貫一博士顕彰協会副理事長・安積国造神社宮司）	世界的歴史学者・朝河貫一 —その「最後の日本人」たる理由とは
		筒井正夫（滋賀大学名誉教授）	閉ざされた学問空間＝丸山眞男の歴史認識
14	6.7.26	古川ひとみ（拓殖大学大学院研究生）	日本人の愛国心について —大東亜戦争の記憶継承と兵士への顕彰行為を通して
		長谷亮介（歴史認識問題研究会研究員）	竹内康人著『朝鮮人強制労働の歴史否定を問う』を書評する
15	6.8.30	西岡力（麗澤大学特任教授）	「佐渡の金山」世界遺産登録の舞台裏
		ジェイソン・モーガン（麗澤大学准教授）	『日本のホロコースト』(Bryan Mark Rigg, <i>Japan's Holocaust: History of Imperial Japan's Mass and Rape During World War II</i> 未邦訳) について